

リーファー物流を開拓

三協

国内外の定温施設活用

日本有数の港湾運送企業である藤木グループの一員で、NVOCC・国際総合物流も展開する三協（藤木幸三社長）は、リーファー関連物流の開拓を進めている。国内外で冷凍・冷蔵物流拠点を持つことから、日本発着にとどまらず、米国、欧州やアジア域内の現地法人・支店、代理店網を生かした三国間輸送の積極的な取り組みも目指している。特に生活水準の向上から、食品関連荷動きが増大している中国とタイで、三協の総合力を生かし、サービス拡充を図る。

三協は4月末、ベルギー・法人のトップが参加し、出展ブリュッセルで開催された世界最大の水産トレードショー「シーフードエキスポ」に幹事の内容をPRする。部や実務担当者、欧州・米国連の新規市場・顧客開拓に積

食品の国際輸送・保管に精通



④から、シーフードエキスポに出展したA・イエンセン欧州法人社長、藤木社長、E・デイメント米国法人代表

極的な動きを見せた。

三協は港湾運送、国際複合輸送を中核事業とする。海産物、穀物、食肉、青果物など厳しい温度管理が求められる食品のハンドリングと保管サービスに精通し、豊富な経験とノウハウを持つ。また、日本、中国、タイ、米国の主要港に定温物流施設を持ち、冷凍・冷蔵保管サービスを提供している。日本では大井の東京水産ターミナルに収容能力1万1250トンの冷凍・冷蔵倉庫があり、本船荷役から倉庫内の荷さばき、仕分け作業、通関、リーファーコンテナのバンニング・デバンニング、小口パッケージの配送、保管までの一貫サービスが提供可能だ。

NVOCC事業では90年代に買収したクリアフレイト（本社＝米国シアトル）を軸に展開している。中国では大連で、同港湾局との合併で、総合物流企業の大連国際集装箱有限公司（DICS）、世界第2位のコンテナメーカーのシンガラスと同港湾局との合併で倉庫業を行う大連勝獅国際集装箱有限公司（DSIC）を運営。さらに09年には香港の大手物流企業ケリー・ロジスティクスと提携するなど、グローバル展開を加速している。